

景気見通し調査 結果レポート

令和7年3月期

特別調査【2025年度の賃上げ実施動向】

福井商工会議所 中小企業総合支援センター

【調査の概要】

当調査は、福井商工会議所管内の小規模事業所を中心とした短期的な景気動向を把握するため、毎年3月・6月・9月・12月の年4回実施している。

調査時期：令和7年2月25日(火)～3月5日(水)

調査方法：FAXによる送付・回収及びGoogleフォームによる回答

調査対象：福井商工会議所の会員 小規模事業所を中心に2,094件を抽出
(製造業・建設業・その他…従業員20人以下の事業所
卸売業・小売業・サービス業…従業員5人以下の事業所)

回答数：407件 (回答率19.4%)

従業員数	製造業	建設業	小売業	卸売業	サービス業	合計
5名以内	31	61	38	34	98	262(64.4%)
6～10名以内	21	15	5	18	13	72(17.7%)
11名以上	27	20	5	8	13	73(17.9%)
小計	79(19.4%)	96(23.6%)	48(11.8%)	60(14.7%)	124(30.5%)	407(100.0%)

D I 値とは…ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、景気動向を示す指標。「良い」「上昇した」とする企業割合から、「悪い」「下落した」とする企業割合を差し引いた値。「現在」D I 値は3ヵ月前を基準とした現在の状況、「先行」D I 値は今後3ヵ月後の状況を予測したもの。

【調査結果の概要】

景況感は大幅に悪化。一方で、人材確保のための賃上げ実施は半数超え。

①業界の景況

3期ぶりの悪化。物価高騰継続と季節要因（大雪）の影響により厳しく。

②自社の景況

2期ぶりの悪化、製造業、建設業が大きくポイントを下げる。

③売上高(受注高)

景況と連動し、大幅に悪化。大雪による受注減少の声も。

④販売価格

ほぼ変化なし、サービス業は5期ぶりに下降。

⑤仕入価格

全体としては横ばい。製造業の先行値は悪化の見通し。

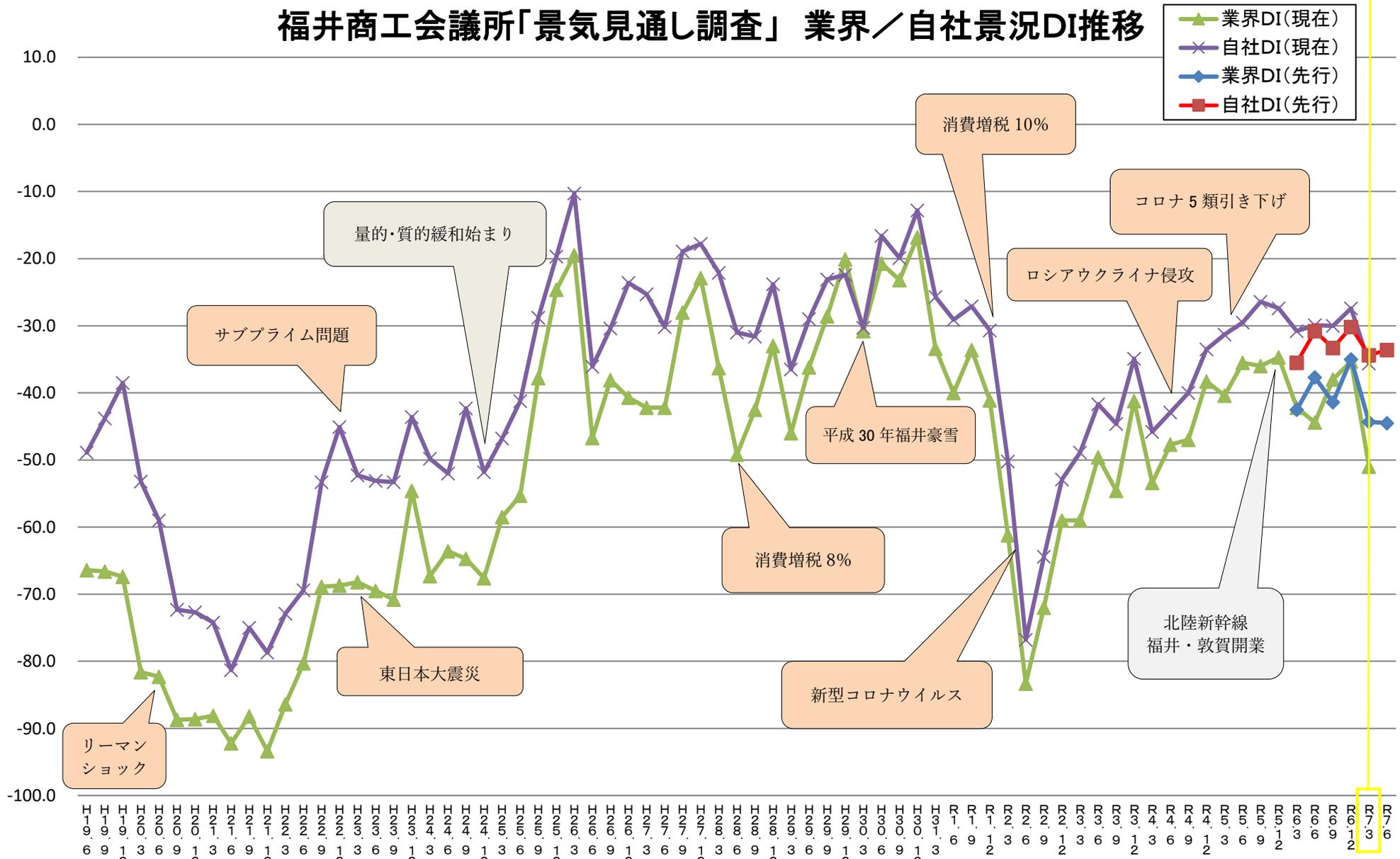
⑥採算(収支)

製造業、サービス業で悪化目立つ。一層の価格転嫁対策が急務。

【特別調査「2025年度の賃上げ実施動向」の概要】

- 賃上げの「実施を予定」する事業所は、55.3%（347社中192社）と半数を超え、加えて「検討中」が19.9%となった。
- 「前年と同水準」が39.7%、「前年を上回る」が10.4%と、賃上げを予定している事業所の半数が前年並以上の水準を予定していることがわかった。
- 賃上げ率は、「2～3%」が35.9%で最多。次に前回調査と比較して大幅に増加した「4～5%台」が31.3%と続いた。
- 賃上げを実施する理由は、「人材確保・従業員定着のため」を挙げる回答が6割を超えた一方で、「業績が伸びたため」は4.3%にとどまり、“防衛的賃上げ”の傾向が続いている。また、「物価上昇に対応するため」との回答も54.5%と前回調査（令和6年3月期）と比較し大幅に増加した。
- 賃上げを実施しない理由は、「経営環境・経営状況の見通しが立たないため」が46.2%と最多となり、経営の先行きやコスト高に対する懸念が賃上げを控える要因となっている。

福井商工会議所「景気見通し調査」 業界／自社景況DI推移

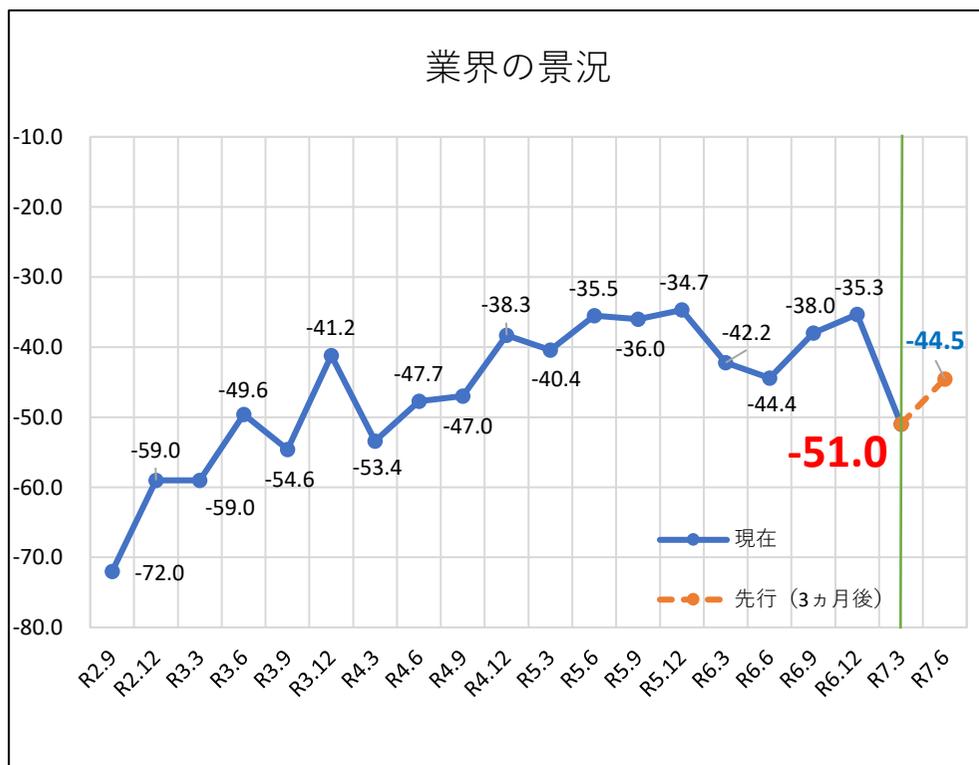


①—業界の景況—

【3期ぶりの悪化。物価高騰継続と季節要因（大雪）の影響により厳しく】

業界全体の現在DI値は、▲51.0（-15.7ポイント）と大幅にポイントを下げ、3期ぶりに悪化した。一方、先行DI値は▲44.5（+6.5ポイント）と改善する見通しである。

業種別にみると、現在DI値は製造業で▲58.2（-22.8ポイント）、建設業で▲38.9（-20.9ポイント）、サービス業で▲41.9（-20.6ポイント）と大きく下げた。製造業では特に「食品製造」「印刷」「繊維」関係で悪化が目立ち、飲食料品製造業の事業所からは「米の価格が高騰している影響もあり厳しい状況。同業他社も供給量不足により材料調達に神経を尖らせている」といった回答があった。また、建設業とサービス業では季節要因による経済状況の悪化を指摘する意見が見られた。一方、製造業の先行DI値は▲46.8（+11.6ポイント）と改善する見込みで、菓子製造業の事業所からは、天候が回復し観光客の客足増加が見込まれる今後の売上増加に期待を寄せる声も聞かれた。



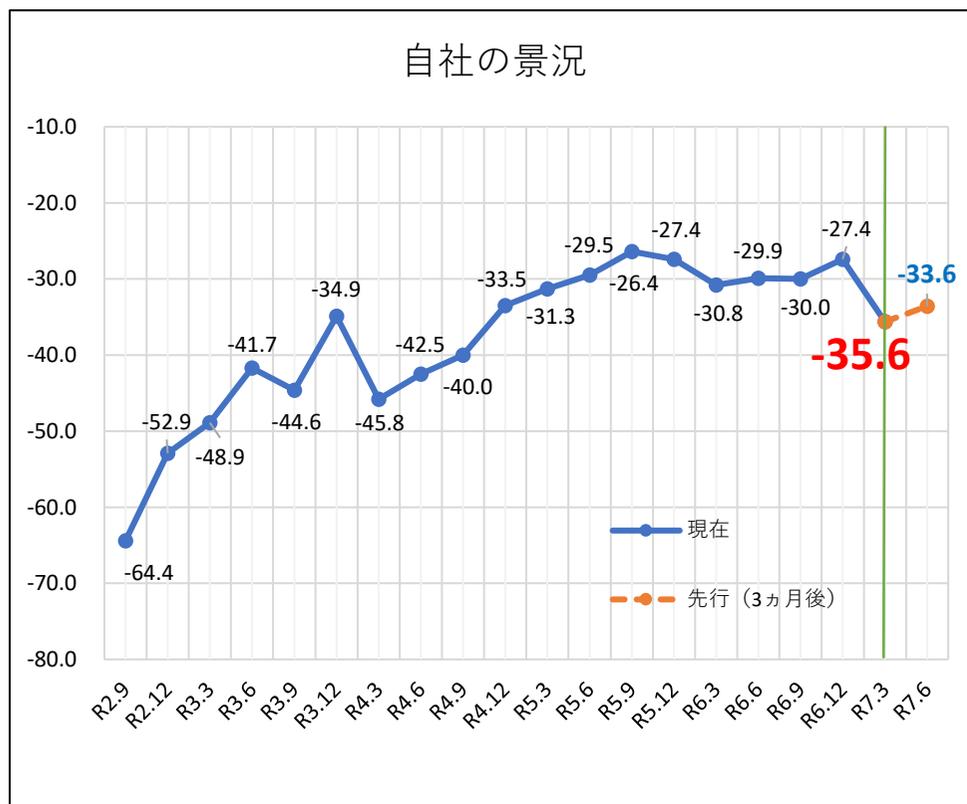
① 業界の景況	2025年1~3月（今期）		2025年4~6月（見通し）	
	現在DI値	変化幅 (R7.3-R6.12)	先行DI値	変化幅 (先行DI-現在DI)
全業種	-51.0	-15.7	-44.5	6.5
製造業	-58.2	-22.8	-46.8	11.6
建設業	-38.9	-20.9	-36.8	2.1
小売業	-62.5	1.1	-56.3	6.2
卸売業	-70.0	-7.9	-70.0	0.0
サービス業	-41.9	-20.6	-32.0	9.9

②—自社の景況—

【2期ぶりの悪化。製造業、建設業が大きくポイントを下げる】

自社の景況は、現在DI値が▲35.6（-8.2ポイント）と2期ぶりに悪化に転じた。また、先行DI値は▲33.6（+2.0ポイント）とわずかに改善傾向となったものの、大幅な改善は見込めていない。

業種別にみると、現在DI値は製造業で▲34.2（-13.8ポイント）、建設業で▲28.1（-16.1ポイント）と大幅にポイントを下げた。住宅施工関連の事業所からは「新築住宅の着工件数や生活スタイル洋式化により受注が減少している」といった消費低迷などによる景況感悪化の声が聞かれた。一方、小売業は▲43.8（+15.3ポイント）と改善した。



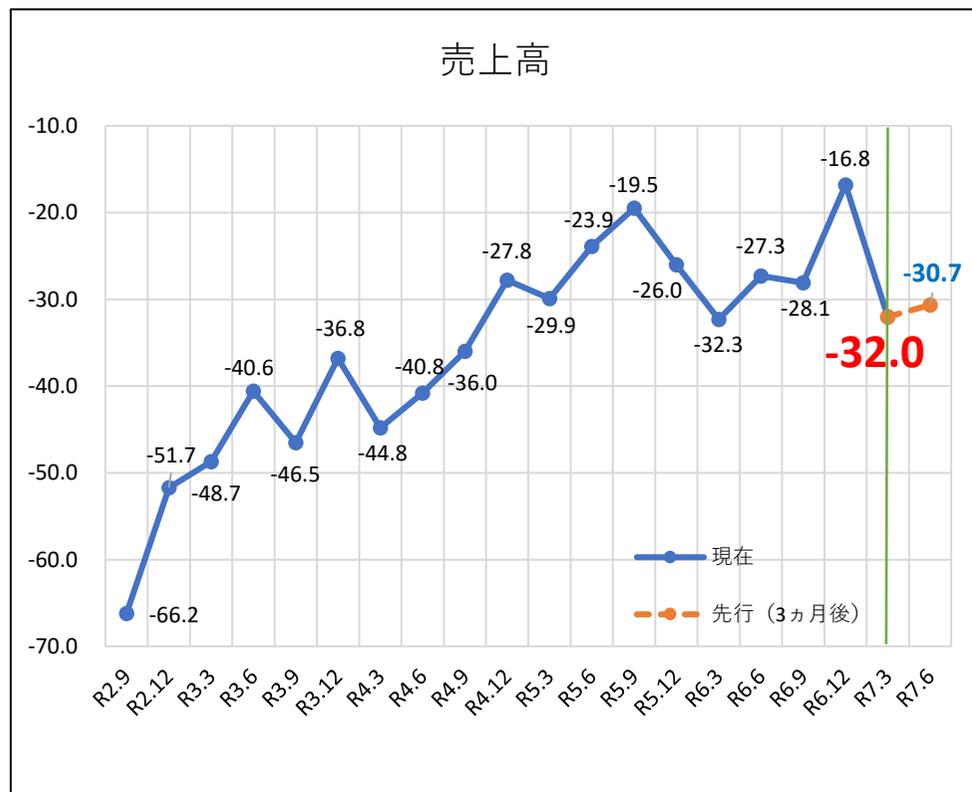
② 自社の景況	2025年1~3月（今期）		2025年4~6月（見通し）	
	現在DI値	変化幅 (R7.3-R6.12)	先行DI値	変化幅 (先行DI-現在DI)
全業種	-35.6	-8.2	-33.6	2.0
製造業	-34.2	-13.8	-27.3	6.9
建設業	-28.1	-16.1	-27.4	0.7
小売業	-43.8	15.3	-54.2	-10.4
卸売業	-53.3	-3.3	-65.0	-11.7
サービス業	-30.6	-10.2	-18.9	11.7

③一売上高（受注高）

【景況と連動し大幅に悪化。大雪による受注減少の声も】

売上高（受注高）の現在DI値は、▲32.0（-15.2ポイント）と大幅に悪化した。先行DI値も▲30.7（+1.3ポイント）と、大きな改善はあまり期待できないと見られる。

業種別にみると、現在DI値は製造業で▲26.6（-13.3ポイント）、建設業で▲25.8（-24.8ポイント）、サービス業で▲28.2（-18.7ポイント）と大幅にポイントを下げ、サービス業の中では飲食業の悪化（前回調査比-44.4ポイント）が目立った。塗装業の事業所からは「2月の大雪の影響で、受注の減少や工期遅れの影響があった」という声が聞かれた。



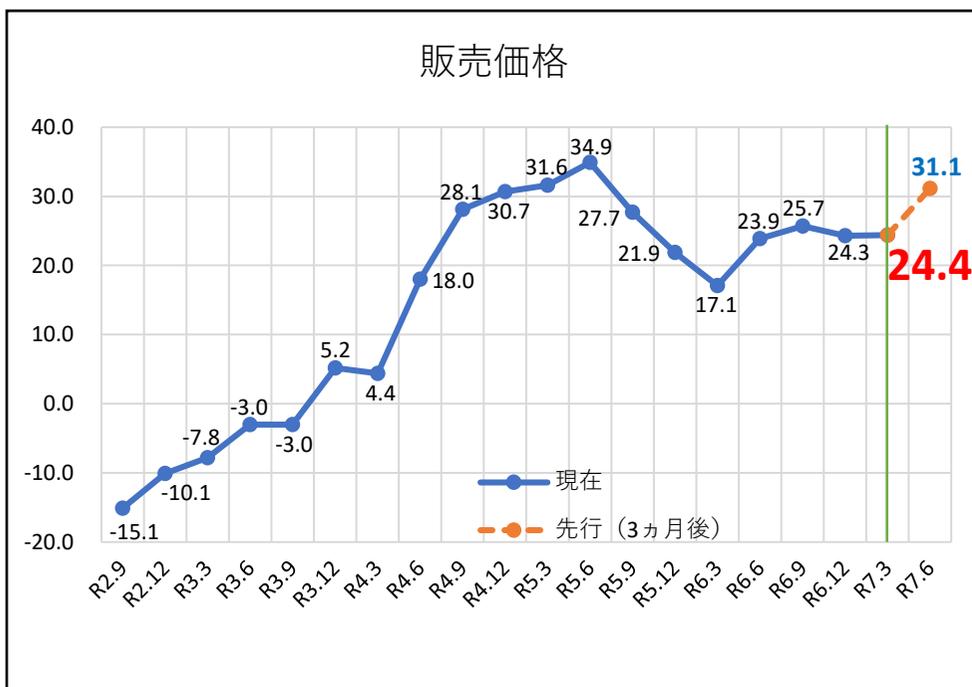
③ 売上高	2025年1~3月（今期）		2025年4~6月（見通し）	
	現在DI値	変化幅 (R7.3-R6.12)	先行DI値	変化幅 (先行DI-現在DI)
全業種	-32.0	-15.2	-30.7	1.3
製造業	-26.6	-13.3	-26.0	0.6
建設業	-25.8	-24.8	-27.2	-1.4
小売業	-40.4	2.8	-38.3	2.1
卸売業	-50.0	-10.6	-63.3	-13.3
サービス業	-28.2	-18.7	-17.2	11.0

④—販売価格—

【ほぼ変化なし、サービス業は5期ぶりに下降】

販売価格の現在DI値は、24.4 (+0.1ポイント)と前回調査から変化は見られなかった。一方、先行DI値は31.1 (+6.7ポイント)とわずかに上昇の見通しとなった。

業種別にみると、サービス業が16.7 (-7.0ポイント)と5期ぶりに下降したほか、小売業でも29.2 (-11.7ポイント)と大幅に下降した。美容室を経営する事業所からは「物価高騰の影響もあり、ヘアーセットやファッションにかける(個人の)予算が減っているため、価格を下げて対応せざるを得ない」との回答があった。一方で、小売業の先行DI値は47.9 (+18.7ポイント)と大幅に上昇する見込みで、酒類を販売する事業所からは「メーカーが4月1日から値上げを発表しているため、取引先に価格改定の承諾を得るための準備をしている」といった声も聞かれ、仕入価格の上昇を価格転嫁でカバーしようとする動きがみられた。



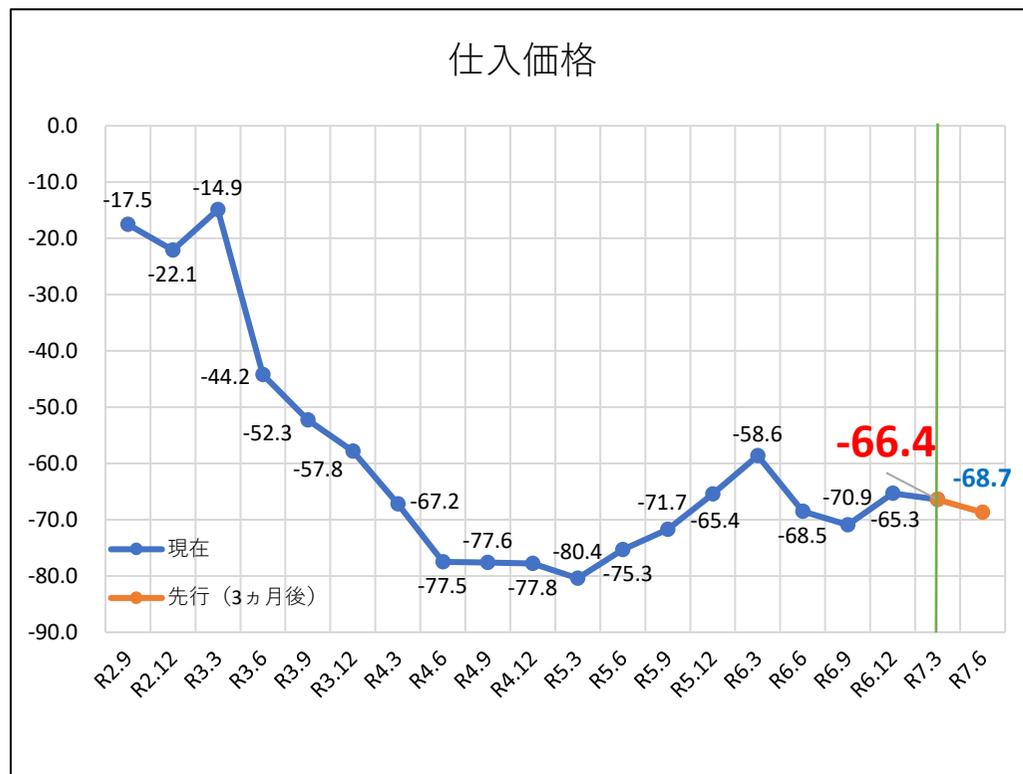
④販売価格	2025年1~3月(今期)		2025年4~6月(見通し)	
	現在DI値	変化幅 (R7.3-R6.12)	先行DI値	変化幅 (先行DI-現在DI)
全業種	24.4	0.1	31.1	6.7
製造業	19.0	0.6	35.5	16.5
建設業	24.2	6.0	23.7	-0.5
小売業	29.2	-11.7	47.9	18.7
卸売業	43.3	11.5	15.0	-28.3
サービス業	16.7	-7.0	18.6	1.9

⑤—仕入価格—

【全体としては横ばい。製造業の先行値は悪化の見通し】

仕入価格の現在DI値は、▲66.4（-1.1ポイント）とわずかに悪化（仕入価格が上昇）した。また、先行DI値も▲68.7（-2.3ポイント）と、ほぼ横ばいで、今後も仕入価格の高止まりは続く見通しとなった。

業種別にみると、現在DI値は製造業で▲59.5（+1.7ポイント）、卸売業で▲68.3（+5.9ポイント）とわずかに改善（仕入価格が下降）した一方、先行DI値は製造業で▲72.4（-12.9ポイント）、卸売業で▲76.7（-8.4ポイント）と再び悪化（仕入価格が上昇）する見込みとなった。金属機械製造業の事業所からは「一旦価格が据え置かれていたステンレスの価格が、原材料不足などの影響により値上げとなる通知があった」との声も聞かれた。



⑤仕入価格	2025年1~3月（今期）		2025年4~6月（見通し）	
	現在DI値	変化幅 (R7.3-R6.12)	先行DI値	変化幅 (先行DI-現在DI)
全業種	-66.4	-1.1	-68.7	-2.3
製造業	-59.5	1.7	-72.4	-12.9
建設業	-62.4	-3.0	-61.3	1.1
小売業	-79.2	-6.5	-79.2	0.0
卸売業	-68.3	5.9	-76.7	-8.4
サービス業	-68.1	-2.1	-63.8	4.3

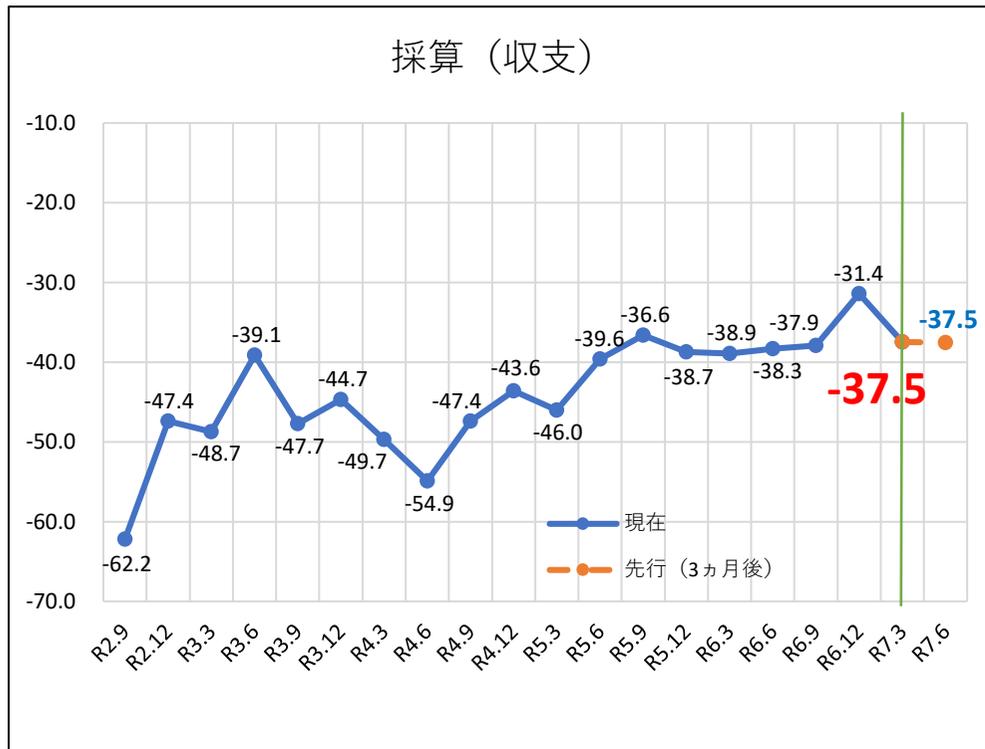
※仕入価格のDI値は上昇すると仕入価格が減少（改善）、下降すると仕入価格が増加（悪化）していることを意味する。

⑥—採算（収支）—

【製造業、サービス業での悪化目立つ。一層の価格転嫁対策が急務。】

採算（収支）状況を表す現在DI値は、▲37.5（-6.1ポイント）と4期ぶりに悪化し、先行DI値も▲37.5（±0.0ポイント）と横ばいの見通しとなった。

業種別にみると、現在DI値は製造業で▲40.3（-13.8ポイント）、建設業で▲29.2（-4.2ポイント）、卸売業で▲41.7（-2.3ポイント）、サービス業で▲40.2（-14.4ポイント）と小売業以外の全ての業種で悪化した。福井駅周辺で飲食店を経営する事業所からは「冬場は気候の影響で元々来客数が減少する。2月の大雪も客足が遠のく一因だった。しかし、気候が穏やかになる4月以降は客足も昨年同時期並みに回復する見込みである」という声も聞かれた。



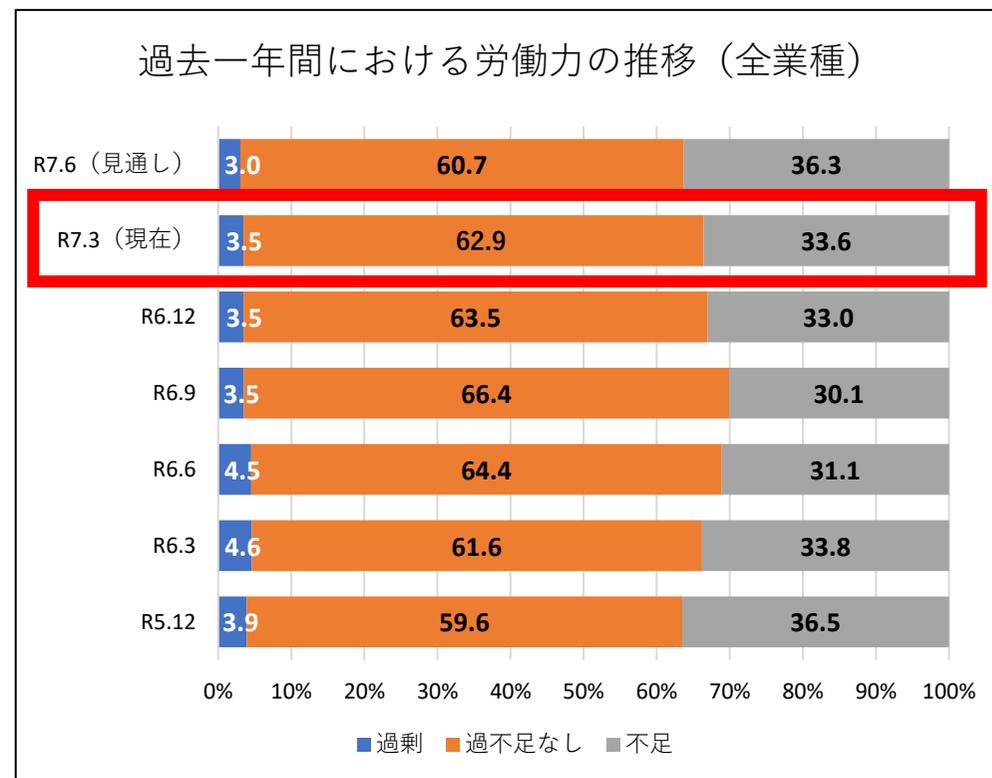
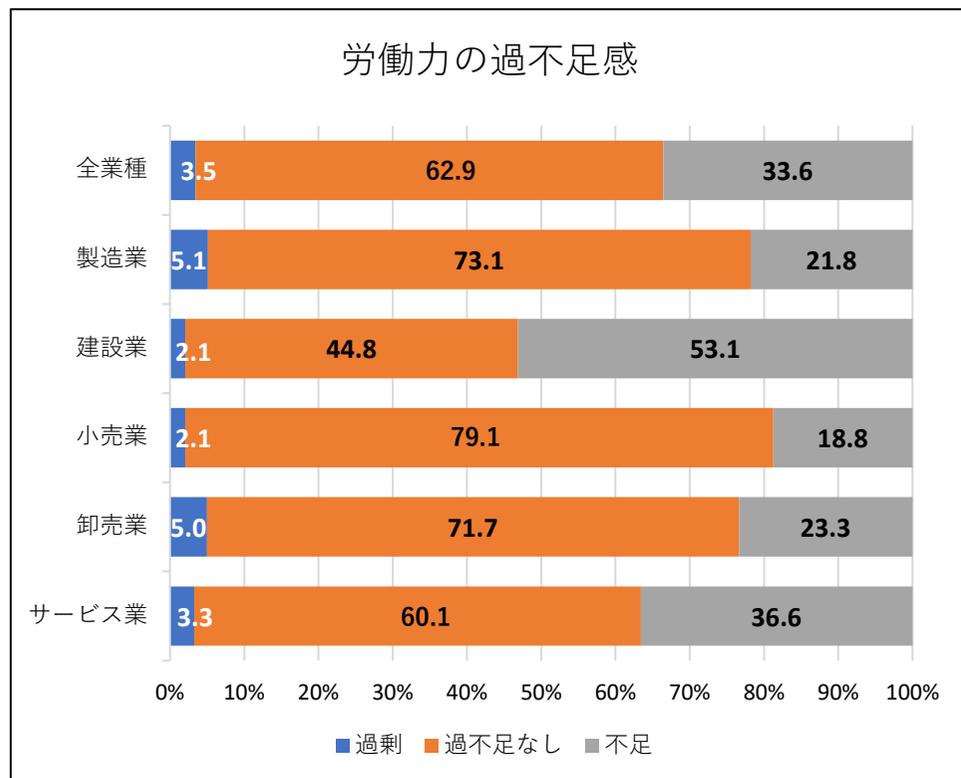
⑥採算	2025年1~3月（今期）		2025年4~6月（見通し）	
	現在DI値	変化幅 (R7.3-R6.12)	先行DI値	変化幅 (先行DI-現在DI)
全業種	-37.5	-6.1	-37.5	0.0
製造業	-40.3	-13.8	-41.3	-1.0
建設業	-29.2	-4.2	-33.0	-3.8
小売業	-37.5	19.3	-41.7	-4.2
卸売業	-41.7	-2.3	-43.3	-1.6
サービス業	-40.2	-14.4	-34.2	6.0

⑦—労働力—

【2期連続で「不足」が増加、今後も不足の懸念強く】

労働力については、「不足」が33.6% (+0.6ポイント)と2期連続で増加となった。また、3ヶ月後も36.3% (+2.7ポイント)と不足感が一層強まる見通しとなった。

業種別にみると、サービス業の中の飲食業で「不足」が38.9% (前回29.4%)と不足感が強まる結果となった。飲食事業者からは「北陸新幹線開業後の来店客数増加に加え、学生アルバイトの卒業シーズンということもあり、人手が不足している。現在は、正社員の出勤日数を増やし対応しているため、人材確保が急務だ」という声も聞かれた。

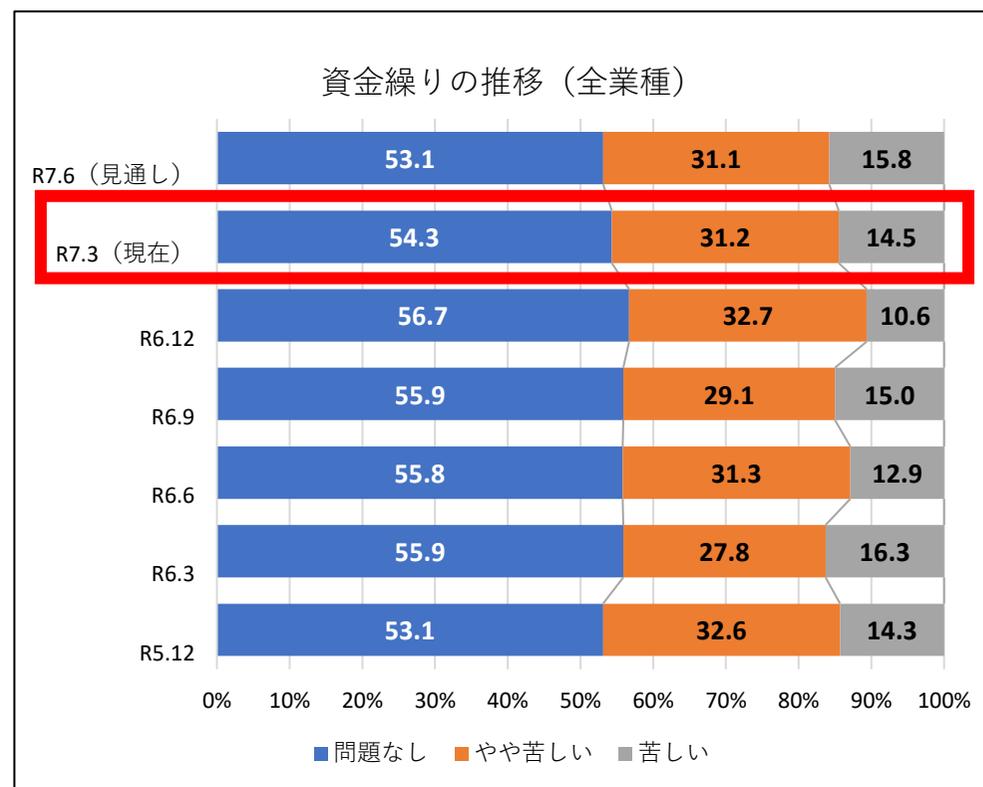
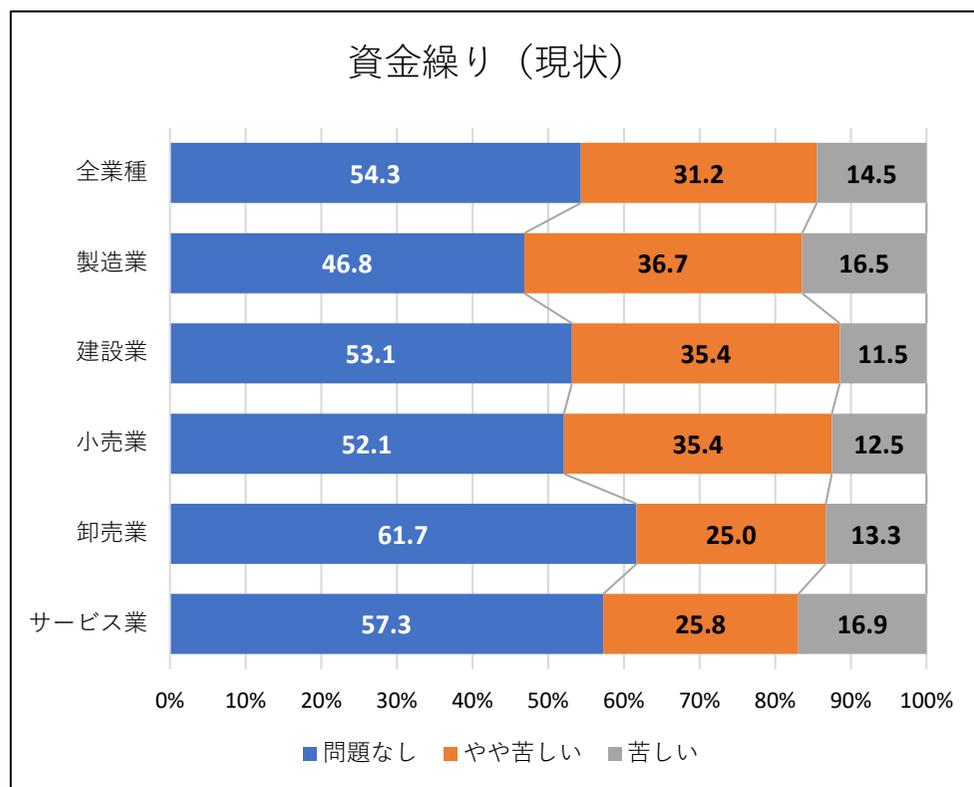


⑧—資金繰り—

【「問題なし」が11期連続で半数を超える】

現在の資金繰りの状況は、「問題なし」が54.3% (-2.4ポイント)と11期連続で半数を超えた。一方で、「苦しい」も14.5% (+3.9ポイント)と増加し、「やや苦しい」との合計は45.7% (+2.4ポイント)となった。また、3ヶ月後の見通しも「苦しい」が15.8% (+1.3ポイント)と増加する見込みである。

業種別にみると、サービス業で資金繰りが「苦しい」とする事業所の割合が多く、飲食業では「苦しい」が27.8% (+10.2ポイント)と大幅に増加した。居酒屋を経営する事業所からは「現在はコロナ禍以降の飲食機会減少で経営が不安定である。したがって、安定して収益を確保するための新事業展開を進めており、資金が不足してきている」という声も聞かれた。

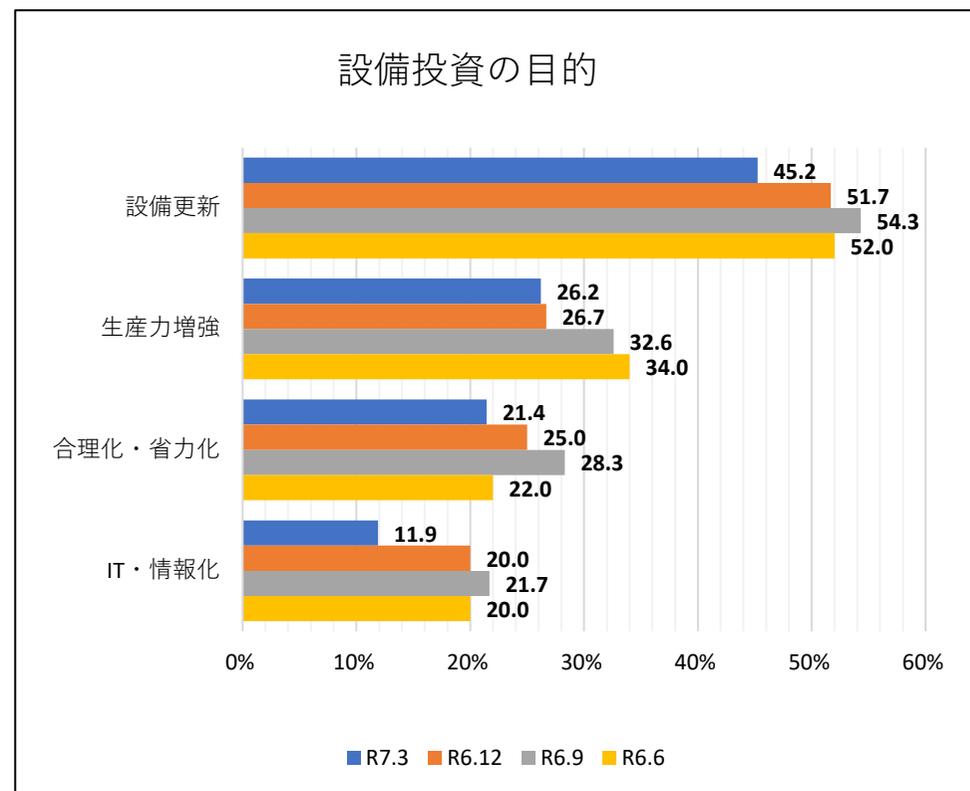
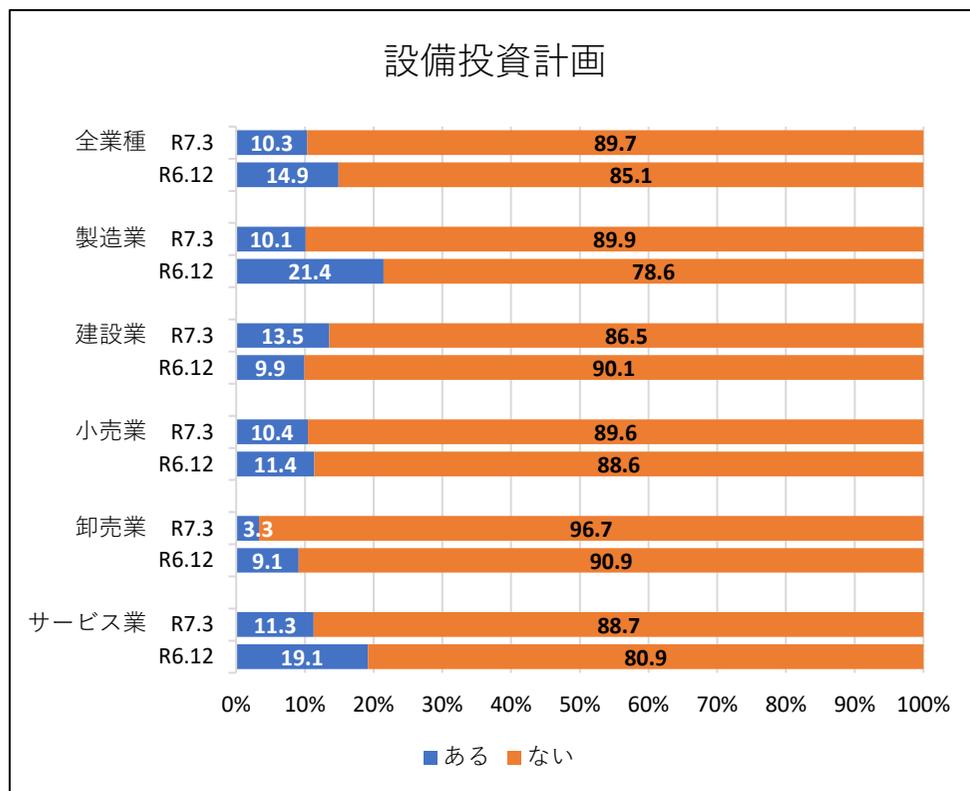


⑨—設備投資—

【「計画なし」が依然として8割を超える】

今後3か月以内の設備投資計画は、「投資計画あり」が10.3% (-4.6ポイント)、「投資計画なし」は89.7% (+4.6ポイント)と依然として8割を超える結果となり、前回調査と比較し設備投資の動きが弱まる予想となった。

業種別にみると、建設業は「投資計画あり」が13.5% (+3.6ポイント)と全業種の中で唯一増加し、その投資内容は「設備更新」を挙げる回答が最も多かった。尚、「投資計画あり」と回答した事業所の投資内容では、「設備更新」が45.2% (-6.5ポイント)と最も多く、次に「生産力増強」で26.2% (-0.5ポイント)、「合理化・省力化」は21.4% (-3.6ポイント)と続き、前回調査から投資内容に変化は見られなかった。

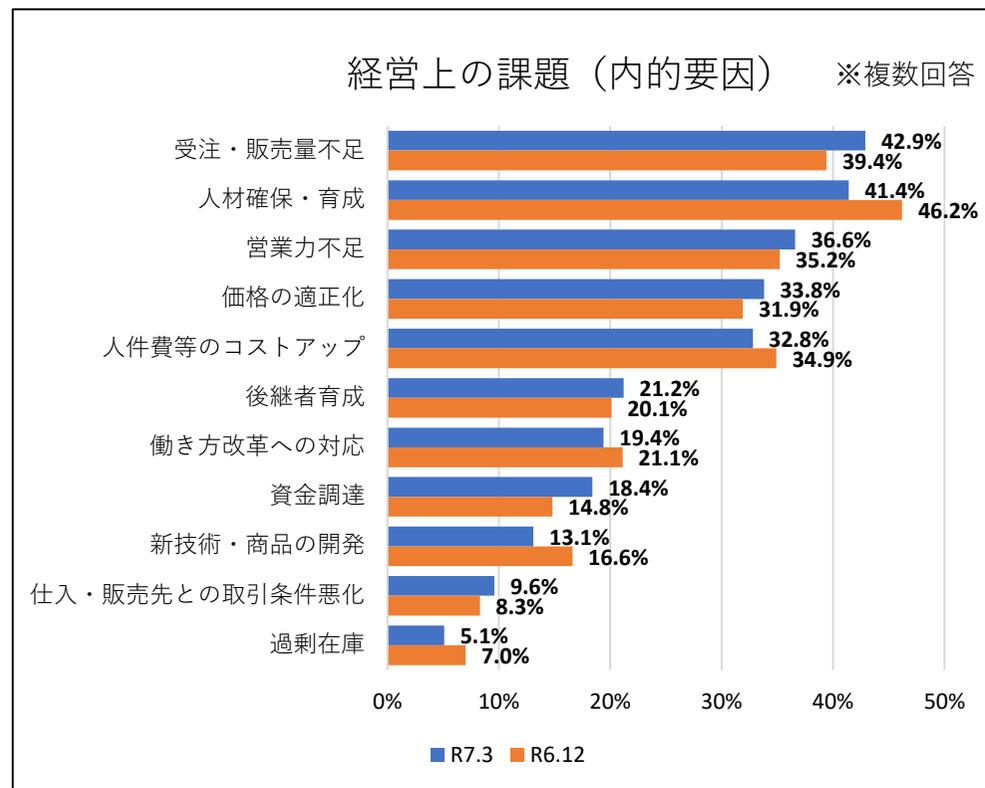


⑩—経営課題（内的要因）—

【2期ぶりに「受注・販売量不足」が最多】

内的要因における経営上の課題は、「受注・販売量不足」を挙げる回答が42.9%（+3.5ポイント）と2期ぶりに最多となった。次いで「人材確保・育成」が41.4%（-4.8ポイント）、「営業力不足」が36.6%（+1.4ポイント）と続いた。

業種別にみると、「受注・販売量不足」は製造業で48.7%（+9.9ポイント）、小売業で60.4%（+1.3ポイント）、卸売業で57.6%（-6.0ポイント）と課題として最も多く挙げられた。また、「人材確保・育成」は建設業で52.1%（-17.3ポイント）、サービス業で46.2%（-3.8ポイント）と最多で、業種間で差が見られた。



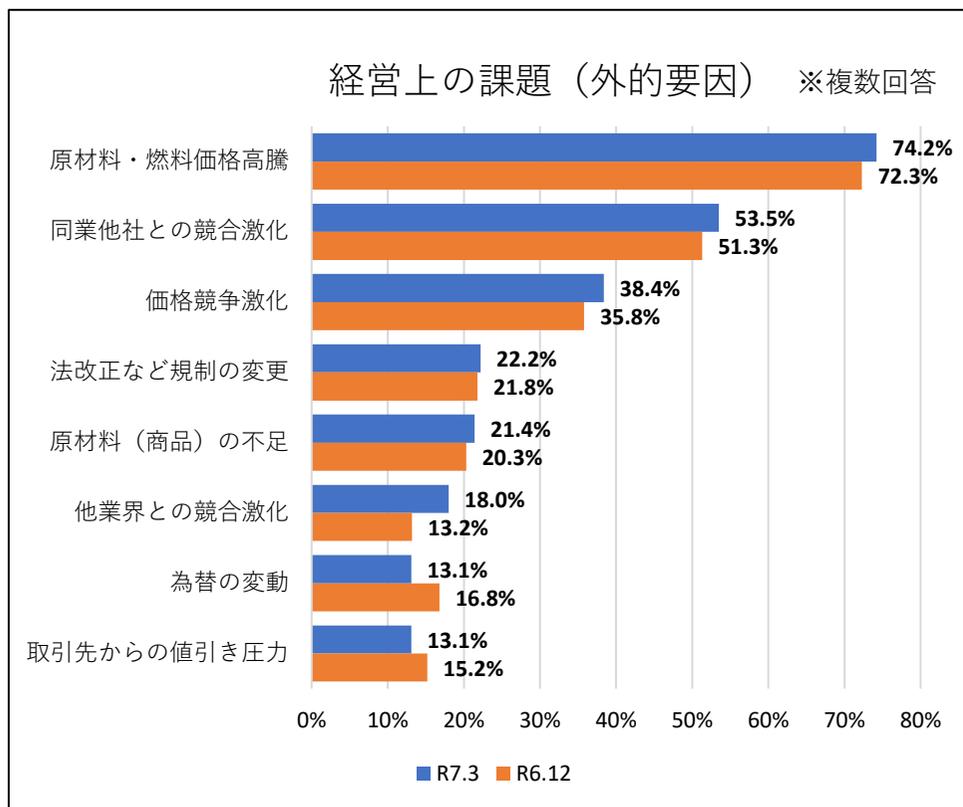
		受注・販売量 不足	人材確保・ 育成	営業力不足	価格の適正化	
業種別経営課題 （内的要因） 【複数回答】	全業種	R7.3	42.9%	41.4%	36.6%	33.8%
		R6.12	39.4%	46.2%	35.2%	31.9%
	製造業	R7.3	48.7%	42.3%	33.3%	24.4%
		R6.12	38.8%	46.9%	31.6%	28.6%
	建設業	R7.3	38.3%	52.1%	31.9%	37.2%
		R6.12	25.5%	69.4%	27.6%	30.6%
	小売業	R7.3	60.4%	29.2%	47.9%	35.4%
		R6.12	59.1%	22.7%	47.7%	27.3%
	卸売業	R7.3	57.6%	23.7%	39.0%	42.4%
		R6.12	63.6%	21.2%	37.9%	42.4%
	サービス業	R7.3	28.2%	46.2%	36.8%	32.5%
		R6.12	28.3%	50.0%	39.1%	31.5%

⑪—経営課題（外的要因）—

【「原材料・燃料価格高騰」が14期連続で最多】

外的要因における経営上の課題は、「原材料・燃料価格高騰」が74.2%（+1.9ポイント）と14期連続で最多となり、次いで「同業他社との競争激化」が53.5%（+2.2ポイント）、「価格競争激化」が38.4%（+2.6ポイント）と続いた。

業種別にみると、「原材料・燃料価格高騰」は全業種で最も多く挙げられ、特に製造業で87.8%（+2.4ポイント）、建設業で83.7%（+7.2ポイント）、卸売業で74.1%（-3.2ポイント）、と回答割合が高かった。なお、「その他」の回答では、顧客の高齢化や人口減少を課題として挙げる回答もあった。



		原材料・燃料価格高騰	同業他社との競争激化	価格競争激化	法改正など規制の変更	
業種別経営課題 (外的要因) 【複数回答】	全業種	R7.3	74.2%	53.5%	38.4%	22.2%
		R6.12	72.3%	51.3%	35.8%	21.8%
	製造業	R7.3	87.8%	48.6%	37.8%	22.2%
		R6.12	85.4%	49.0%	40.6%	16.7%
	建設業	R7.3	83.7%	54.3%	45.0%	33.7%
		R6.12	76.5%	55.1%	34.7%	28.6%
	小売業	R7.3	59.6%	55.3%	38.3%	14.9%
		R6.12	53.5%	51.2%	32.6%	11.6%
	卸売業	R7.3	74.1%	46.6%	39.7%	17.2%
		R6.12	77.3%	42.4%	34.8%	9.1%
	サービス業	R7.3	63.4%	58.9%	37.5%	24.1%
		R6.12	59.3%	56.0%	34.1%	34.1%

参考：回答者の声

- 北陸新幹線の開業効果で小売・飲食部門共に好調で、今後も開業効果は継続するとみられる。（土産品販売等）➡
- 米の需要が増加しているほか、価格も上昇しているため注文が殺到している。しかし、収穫量には限界があり在庫限りの販売となるため、今後については作付面積を拡大することで売上の増加を図っていく。（農業法人）➡
- 県・市道や公園の舗装工事は受注が安定している。また、今後については、埼玉県八潮市で起きた道路陥没事故を契機とした配管の点検実施が本県においても予想されるため、点検後の舗装工事受注の可能性もある。（土木工事業）➡
- 事業を拡大していくにあたり人手の確保が必要となる中、初任給ならびに既存社員の賃金を上げる必要がある。（製造業）➡
- 従業員の高齢化が課題となっており若手社員の確保・定着が必要なため、賃金の引き上げを予定している。賃金の引上げ率については、労働局が発表する最低賃金の引上げ率を参考にしている。（舗装工事業）➡
- 鳥インフルエンザの感染拡大が長期化しており、鶏卵の供給量が減少することで機会損失の発生、ひいては売上の減少につながっている。
（食品製造業）↘
- 海外から輸入される安価な繊維品のシェアが増加しているため、業界を取り巻く環境は今後も厳しくなると予想している。（繊維製造業）↘
- 冬場は、大雪の影響もあり土産品の売上が減少した。また、今後の売上は天候の回復により増える見込みであるものの、材料は砂糖・小麦粉を中心に上昇している。価格転嫁の準備は進めているが、取引先からは2~3ヶ月前までに価格改定の旨を通達するよう依頼されているため、タイミングを見計らっている。（菓子製造・販売）↘
- 物価高騰の影響で資材価格が高騰しており、顧客の施工予算が下落している。（工務店）↘

- 2021年のウッドショック以降、一旦価格高騰は落ち着きを見せていたものの、4月以降は木材加工にかかる電気代や、ガソリン価格高騰に起因する資材の運搬費高騰などにより、再び価格上昇の恐れがある。(建材販売業) ↘
- 主要販売先は飲食業であるが、コロナ禍が明けても業績が戻らず、半ば値引きを強いられることがある。酒米の高騰で仕入価格が上昇するなかでの値引きは非常に苦しいものがある。(酒類販売業) ↘